



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月8日

上場会社名 CBグループマネジメント株式会社 上場取引所 東
コード番号 9852 URL <http://www.cbgm.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 児島 誠一郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 原 幸男 TEL 03-3796-5075
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	113,062	6.2	1,805	40.3	1,867	38.5	1,253	41.6
2023年3月期第3四半期	106,437	△7.9	1,287	259.0	1,348	245.0	885	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,344百万円 (10.1%) 2023年3月期第3四半期 1,221百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	581.58	—
2023年3月期第3四半期	421.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	57,711	23,539	40.8	10,919.47
2023年3月期	47,978	22,413	46.7	10,396.98

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 23,539百万円 2023年3月期 22,413百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2024年3月期	—	0.00	—		
2024年3月期（予想）				100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	142,900	3.0	2,360	2.8	2,420	2.7	1,650	0.2	655.54

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
（注）詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	2,461,848株	2023年3月期	2,461,848株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	306,122株	2023年3月期	306,122株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	2,155,726株	2023年3月期3Q	2,101,116株

（注）株主資本において自己株式として計上している「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式を、期中平均株式数（四半期累計）の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気の緩やかな持ち直しが見られたものの、円安などに起因する原材料価格やエネルギーコストの高騰ともなう物価上昇と、実質賃金の減少により、景気の下押しリスクが依然として残る先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社グループでは、生活必需品を中心とした価格値上げの浸透やインバウンド需要の回復、猛暑残暑による個人消費の変化を捉えた施策の実施に加え、改善活動を通じた生産性向上とコスト削減努力を重ねた結果、増収増益となりました。

当社グループは、今後とも様々な経営環境の変化に機敏に対応し、コスト管理の強化・適切な投資の実施などを通じて業績の維持向上に注力するとともに、「生活文化の洗練とこどもたちの健やかな未来の実現」をグループの「パーパス」として掲げ、将来にわたる安定的な事業継続と社会的な価値創造を果たしてまいります。

その実現のために、新たな中期3か年経営計画（2024年3月期～2026年3月期）において、以下の5つの重点戦略を策定しました。グループ全体で新しいビジネスモデルへの変革を推進し、質的な成長をめざしてまいります。

1) グループ全体の抜本的な事業ポートフォリオの変革

グループの中長期の安定成長と企業価値向上のため、抜本的な事業ポートフォリオの変革を実行し、グループ経営資源の最適配分を実現いたします。

(重点施策)

- ①メーカー事業の成長強化のための積極的投資
- ②卸売事業の付加価値向上のための事業構造改革推進

2) パーパス経営の推進

パーパスで掲げた「生活文化の洗練とこどもたちの健やかな未来の実現」の更なる浸透を図り、パーパス経営を強力に推進します。社員一人ひとりの意識と仕事に結びつけたマネジメントを継続的に展開し、「最もデザインフルな企業グループ」のビジョンを追求いたします。

3) 新しい働き方のデザイン

効率・効果両面の生産性を向上させ創造価値を最大化するために、意思をもって新しい働き方をデザインし、常に進化させてまいります。仕事のあり方を根本から設計し直し、すべての社員がやりがいと生産性と充実感を高められるよう努力いたします。

4) 戦略的人材マネジメントの推進

人材がもっとも重要な経営資源であるという基本的な考えにもとづき、人材の採用、リテンション、育成、配置、組織運営、企業風土のあり方等を含め、事業戦略と整合した戦略的な人材マネジメントを推進してまいります。同時に社員一人ひとりの状況や気持ちに寄り添い、モチベーションを高めてワクワクとした気持ちで仕事に取り組んでいただけるよう努力いたします。

5) キャッシュ・フロー経営の更なる徹底

「キャッシュ・フロー経営」をさらに強化して、一層強固な財務体質を目指します。同時に、将来の成長に必要な再投資も積極的に検討・実施し、企業価値を最大化し株主価値の向上に努めます。

以上の結果、子会社5社を含めた当第3四半期連結累計期間の売上高は1,130億6千2百万円（前年同期比66億2千4百万円の増加）、営業利益は18億5百万円（前年同期比5億1千8百万円の増加）、経常利益は18億6千7百万円（前年同期比5億1千9百万円の増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億5千3百万円（前年同期比3億6千8百万円の増加）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

- ①日用雑貨事業におきまして、売上高は1,128億1百万円（前年同期比66億2千5百万円の増加）、営業利益は18億8千6百万円（前年同期比5億1千6百万円の増加）となりました。
- ②不動産賃貸事業におきまして、売上高は2億6千万円（前年同期比1百万円の減少）、営業利益は3千6百万円（前年同期比4百万円の増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産合計は、前連結会計年度末比97億3千2百万円増加し、577億1千1百万円となりました。これは主として、受取手形、売掛金及び契約資産が78億7千8百万円、商品及び製品が17億5千9百万円、未収入金が14億2千8百万円それぞれ増加し、流動資産のその他に含まれる前渡金が13億円、建物及び構築物（純額）が1億4千8百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末比86億5百万円増加し、341億7千1百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が50億6千万円、短期借入金が39億6千万円それぞれ増加し、未払法人税等が1億9千3百万円、賞与引当金が1億3千5百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末比11億2千6百万円増加し、235億3千9百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益12億5千3百万円及び剰余金の配当2億1千8百万円により、利益剰余金が10億3千5百万円、その他有価証券評価差額金が1億3百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高は、1億5千2百万円（前年同期比1億5千9百万円の減少）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、36億1千9百万円の支出（前年同期比27億9千9百万円の増加）となりました。収入の主な要因は、税金等調整前四半期純利益19億1千2百万円、仕入債務の増加額50億6千万円であります。支出の主な要因は、売上債権の増加額78億7千8百万円、棚卸資産の増加額17億8千2百万円、法人税等の支払額8億7千1百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、4千8百万円の支出（前年同期比2億7百万円の減少）となりました。収入の主な要因は、投資有価証券の売却による収入1億5千万円であります。支出の主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億1千8百万円、無形固定資産の取得による支出4千3百万円、投資有価証券の取得による支出3千8百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、37億2千9百万円の収入（前年同期比25億9千4百万円の増加）となりました。収入の主な要因は、短期借入金の増加額39億6千万円であります。支出の主な要因は、配当金の支払額2億1千8百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしましたとおり、通期の業績予想に変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	91	152
受取手形、売掛金及び契約資産	21,984	29,863
商品及び製品	7,452	9,212
仕掛品	363	373
原材料及び貯蔵品	164	177
未収入金	1,848	3,277
その他	2,100	793
貸倒引当金	△93	△91
流動資産合計	33,912	43,758
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,478	2,330
土地	3,654	3,654
その他（純額）	516	511
有形固定資産合計	6,649	6,496
無形固定資産		
その他	441	368
無形固定資産合計	441	368
投資その他の資産		
投資有価証券	4,247	4,329
退職給付に係る資産	448	465
繰延税金資産	457	474
その他	1,873	1,871
貸倒引当金	△53	△52
投資その他の資産合計	6,974	7,087
固定資産合計	14,066	13,952
資産合計	47,978	57,711

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,779	18,839
短期借入金	3,790	7,750
未払法人税等	404	211
未払事業所税	25	20
賞与引当金	315	179
役員賞与引当金	43	37
資産除去債務	129	126
その他	4,381	4,255
流動負債合計	22,868	31,420
固定負債		
繰延税金負債	1,112	1,156
役員退職慰労引当金	5	4
役員株式給付引当金	70	79
資産除去債務	494	499
退職給付に係る負債	—	1
その他	1,013	1,010
固定負債合計	2,697	2,751
負債合計	25,565	34,171
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,608	1,608
資本剰余金	1,321	1,321
利益剰余金	18,098	19,134
自己株式	△569	△569
株主資本合計	20,458	21,493
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,889	1,992
退職給付に係る調整累計額	65	53
その他の包括利益累計額合計	1,954	2,045
純資産合計	22,413	23,539
負債純資産合計	47,978	57,711

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	106,437	113,062
売上原価	95,050	100,899
売上総利益	11,387	12,162
販売費及び一般管理費	10,100	10,356
営業利益	1,287	1,805
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	62	71
その他	22	11
営業外収益合計	88	87
営業外費用		
支払利息	25	22
その他	1	3
営業外費用合計	27	25
経常利益	1,348	1,867
特別利益		
投資有価証券売却益	—	74
特別利益合計	—	74
特別損失		
減損損失	0	0
投資有価証券評価損	0	28
特別損失合計	1	29
税金等調整前四半期純利益	1,347	1,912
法人税等	461	658
四半期純利益	885	1,253
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	885	1,253

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	885	1,253
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	383	103
退職給付に係る調整額	△48	△12
その他の包括利益合計	335	90
四半期包括利益	1,221	1,344
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,221	1,344
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,347	1,912
減価償却費	387	390
減損損失	0	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	28
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△74
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	△1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△109	△135
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	16	△5
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△55	△32
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	△1
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1	△1
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	9	8
受取利息及び受取配当金	△66	△75
支払利息	25	22
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,857	△7,878
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,137	△1,782
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,464	5,060
その他	△1,095	△234
小計	△64	△2,800
利息及び配当金の受取額	65	75
利息の支払額	△27	△23
法人税等の支払額	△793	△871
営業活動によるキャッシュ・フロー	△820	△3,619
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△129	△118
無形固定資産の取得による支出	△93	△43
投資有価証券の取得による支出	△34	△38
投資有価証券の売却による収入	—	150
その他	1	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△255	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,350	3,960
配当金の支払額	△206	△218
自己株式の取得による支出	△36	—
自己株式の売却による収入	36	—
リース債務の返済による支出	△8	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,135	3,729
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	59	61
現金及び現金同等物の期首残高	253	91
現金及び現金同等物の四半期末残高	312	152

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(追加情報)

(取締役に対する株式報酬制度の導入)

当社及び一部の連結子会社は、取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。（以下「対象取締役」という。））の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、対象取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust））」を導入しております。

当該信託契約に係る会計処理については「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じて、総額法を適用しております。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、対象取締役に対して、当社及び一部の連結子会社の取締役会が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭が本信託を通じて給付される株式報酬制度です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末104百万円、27千株、当第3四半期連結会計期間末104百万円、27千株であります。